

大事なもんは 時間がかかるわー

不格好でも迷っても、少しずつ、少しずつ。
わたしと家族とこの街の再生への通過点。

神戸で、在日コリアン家族の下に生まれた金子灯（富田望生）。
在日の自覚は薄く、震災の翌月に生まれたことで被災の記憶がない灯は、
父（甲本雅裕）や母（麻生祐未）からこぼれる家族の歴史や
震災当時の話が遠いものに感じられ、どこか孤独と苛立ちを募らせている。
一方、父は家族との衝突が絶えず、家にはいつも冷たい空気が流れていた。
親戚の集まりで起きた口論によって、
気持ちが高ぶる「全部しんどい」と吐き出す灯。
そして、姉・美悠（伊藤万理華）が持ち出した日本への帰化をめぐり、
家族はさらに傾いていく。

ある日、感情のコントロールを失い声を上げて泣いてしまう灯。
薬をもらう病院通いだけでは一向に心は回復しなかった。
そんな時、高校時代からの親友（山之内すず）にある診療所を紹介される。
彼女の母親も震災以降、PTSDを抱え続けていた。
診療所で泣きながら「なんで生きなあかんのやろ」と吐露する灯に、
医師（渡辺真起子）が静かに声をかける。
「金子さんのつらさがあるのか、一緒に考えてみませんか」
―回復を目指していく中で希望を探し続ける日々。コロナ禍も経て、
いろんな人と出会い、支えられ、心を通わせ、家族とも向き合い、
灯は長い時間をかけて人生にかすかな光を見出していく。

本作は高校卒業から12年間に及ぶ主人公の模索の日々を、表情豊かな神戸の街
を舞台に繊細に紡いでいく。主人公・灯の苦しみや葛藤、成長を見事に演じ切っ
たのは今作が初の映画主演作となる富田望生。監督は、20年以上にわたり、N
HKの演出家として「カムカムエヴリバディ」など数々のドラマを手掛け
てきた安達もじり。神戸で暮らす人々への膨大かつ綿密な取材を基に、震災後
をリアルに描くオリジナルストーリーを作り上げた。「声なき声」とその苦し
みに耳を傾けようとする作品である。

大きな災害によるトラウマは、いくつもの対立や矛盾をよりいっそう
露わにし、新たなトラウマへとつながっていく。そして、国家間の戦争が、
過去から現在までどれほど家族における問題に深く影響しているか。
これらが主人公である女性の苦悩をとおしてみごとに描かれた作品
である。何よりすばらしいのは、家族を超えた新たな共生と再生の兆しが
主人公をとおして静かに浮かび上がってくることだ。

信田さよ子さん（公益社団法人 日本公認心理師協会 前会長）

推薦 一般社団法人 日本臨床心理士会
公益社団法人 日本公認心理師協会
後援 公益社団法人 日本社会福祉士会

写真：平野愛

港に 灯が ともる

THE HARBOR LIGHTS



トークゲスト 安 成洋さん

あんせいよう／一般社団法人神戸シ
ネマ・ケア・ダイアログ代表理事。
特定行政書士・社会保険労務士。土
業の傍ら、精神科医の実兄・故安克
昌のNHKドラマ化を契機に「阪神淡
路大震災と心のケアのいま」を描く
映像作品の制作と普及に取り組む。



トークゲスト 橘 厚子さん

たちばなあつこ／岡山市生まれ。大学
から愛媛に住む精神科医。25年間に
わたり単科精神病院に勤務後、2015
年に心療内科「こころのクリニック
たちばな」を開院。院長として思春
期から高齢者まで幅広く診察を行い、
日々患者の声に耳を傾けている。



進行・聴き手 桝形 浩人さん

ますがたひろと／神戸市出身。俳優・
演出家・脚本家。2002年に劇団P.S
みそ汁定食を旗揚げ。若手演出家コ
ンクール2021優秀賞受賞他。出演
する住宅情報番組「ますっんの陽あ
たり良好！」（テレビ愛媛）は放送20
年目を迎える。

【愛媛県男女共同参画センター】

駐車場に限りがあります。公共交通をご利用下さい。



トークショー 登壇者プロフィール